

福島県立梁川高等学校 令和元年9月19日 校長だより 知性 誠実 責任 第 38 号

■ 地域課題探究活動

本校の2年生が、総合的な学習の時間で「地域課題探究活動」として10のグループに分かれ グループごとにテーマを決めて調査活動を行い、その成果を発表会を開いて披露しました。この 発表会により、「令和元年度福島県高校生地域貢献サミット」の出場者を選出します。

〈梁川活性化作戦 梁川八幡神社と伊達〉

- [動機] ① 11月の修学旅行の際に、京都で梁川をPRしたい。
 - ② 昨年度の総合学習で学んだ梁川の歴史を活用したい。
 - ③ 梁川の歴史と京都の間に関係があるか気になった。
- [内容] ① 八幡神社は平安時代984年に創建され、伊達氏が梁川城に本拠を置いた13 世紀後半に守護神として鬼門の方角に祀られた。
 - ② 1582年、伊達政宗が梁川城に滞在し、八幡神社に参詣する。
 - ③ 梁川にある「心字の池」は京都と関わりがあり、京都の文化を意識して家臣団 統一に向け伊達家の文化高揚と権威の象徴として必要だった。
 - ④ サンドウィッチマンの伊達みきおさんは、昔、梁川の大枝を治めた伊達政宗の 弟の子孫である。
 - ⑤ 梁川八幡神社を観光地化していく上では、三重塔の復元や流鏑馬の復活などの 課題があり、資金面が大きな問題となる。

〈私たちの街の福祉 ~支え合い、変えていく、活力あふれる地域へ~〉

- [内容] ① 伊達市の高齢化率は34.6% (平成31年3月末現在)となっており、今後 も上昇することが予想される。
 - ② 療育を必要とする伊達市の子どもの数は556人(平成30年4月1日現在) となっており、そのうち梁川は166人である。
 - ③ 障がい者の数は伊達市全体で3031人であり、そのうち身体障がい者が25 20人、精神障がい者は511人となっている。
 - ④ ハンデがある人に私たちができることはないのか、安心して生活していける地域づくりとはどのようなものか考えていかなければならない。
 - ⑤ ボランティアによって笑顔で過ごせる人がもっと増えたら地域の中のあちこちで笑い声が聞こえ、明るく活気にあふれた街になるのではないか。
 - ⑥ 昔も今もこれからも家族や地域とのつながりが大切であり、一人一人の優しさ や思いやりが広がれば人とのつながりも広がり、よりよい街になる。

〈福島の食品の安全性 放射性物質と食品の安全〉

- [動機] 京都での郷土PR体験の際に食品を提供するので放射性物質と食品の安全性について考え、今の福島がどのくらい安全なのかを伝えたい。
- [内容] ① 福島県では放射性物質の検査を行っており、その結果を福島県のHPで公表している。
 - ② 生産段階と流通・消費段階で自動観測機を使った検査や抜き取り検査を行っている。学校給食でも検査を行っている。
 - ③ 未だに福島の風評被害は消えていない。役所などがSNS等のメディアを活用したPR活動を行っている。
 - ④ 高齢者などのメディアを使わない消費者への対応が課題となっている。
 - ⑤ これからの時代、役所だけでなく僕たちのような若い世代が率先して風評被害 をなくしていく必要がある。

〈伊達市PRアニメ ~政宗ダテニクルについて~〉

- [動機] アニメのラッピング車やラッピング電車が走っていて気になった。
- [内容] ① 平成27年から制作が始まり年間2話ずつ配信されている。現在は YouTube などに6話まで配信されている。
 - ② 伊達家17代伊達政宗と政宗を支える歴代の当主が織りなす戦国青春グラフティで舞台は伊達氏発祥の地である福島県伊達市。
 - ③ 「ダテニクル」の由来は、伊達に来てほしいという思いを込めた政宗とクロニクルとの造語である。
 - ④ 県外から観光客を呼ぶにはどのように PR するかが課題である。
 - ⑤ 伊達市をPRするために、伊達市ゆかりの人物を使って、今人気のアニメとコラボするアイディアはとてもよい。

〈梁川の和菓子について 「玉泉堂」と「福のれん」に行ってみた〉

- [内容] ① 玉泉堂は梁川にある和菓子屋さんでチョコバナナやあんぽ柿ようかんが有名。 大正14年に創業して昭和25年に一度閉店し、昭和45年に再び開店した。
 - ② 1986年8月5日の水害では材料が入ってこなくて困った。
 - ③ 地元で盛んにつくられているあんぽ柿を使ってつくれるお菓子はないかと考え たのがあんぽ柿ようかん。
 - ④ 福のれんは梁川にある創業70年目の和菓子屋さんで、先代から続くクリーム たっぷりのロールケーキが有名。
 - ⑤ 3月と9月のお彼岸の時期には、茶まんじゅうなどの和菓子がよく売れる。
 - ⑥ 夏には、かき氷やソフトクリーム、フロートなどがある。
 - ⑦ 玉泉堂と福のれんは、昔から梁川の町と共にあり、災害が起きたときも力強く お店を続けて、お客さんにこだわりの和菓子と笑顔を届けている。